



久慈市が目指す「将来像」を示す計画です

総合計画
って何?

久慈市総合計画は、まちづくりの理念や、市が目指す将来像を示す最も重要な計画です。市が行う事業も、この計画の方向性に基づいて進めることになります。

期間は平成18年度から27年度までの10年間で、「基本構想」、「基本計画」の2つで構成されています。(下図)

平成22年度は10年間の折り返し地点。今回お知らせするのは、後期5年の方針を定めた「後期基本計画」の内容です。



みんなの力で
進めよう!

未来のまままじらじら

市総合計画・後期基本計画を策定します

新市誕生から5年。
まちの将来像を定めた
久慈市総合計画(10力年)
の折り返し地点です。
市は今後5年の方針を定めた
「後期基本計画」を策定します。
連携と協働を重視した内容です。
皆さん、未来に向けたまちづくりを
一緒に進めていきましょう。(5歳まで)
園政策推進課 ☎52-2115



みんなで進もう!



右から、澤山柚稀くん、大城祥汰くん、古屋敷琴乃さん、播磨香鈴さん。新久慈市1年目に平山小に入学した4人も今は5年生です。大きく成長できる5年の月日。まちも発展を目指し突き進みます!

「輝くまち」が柱

新久慈市が誕生した平成18年、市は新たなまちづくりを進めていくために、市民の皆さんの意見を聞きながら長期的視点で検討を重ね、「久慈市総合計画(左枠)」を策定。大黒柱となる基本構想「夢・希望・未来に向かってひと輝くまち」の実現を目指して取り組みを進めてきました。総合計画の策定期間は、平成18年度から27年度までの10年間。施策の方向や分野ごとの取り組みを定める「基本計画」は前期5年間と後期5年間に分けて策定することにな

最良を探って協議

平成18年度から本年度までの5年間は、前期基本計画に基づき、やませ土風館などを整備する街なか再生推進事業、学校給食センター改築事業、市営住宅てらさと団地整備事業などを実施しました。

市は昨年6月、後期基本計画の策定に向けて、市民の皆さんの意見を聞くために市民満足度アンケートを実施。8月には委員16人で構成する後期基本計画策定検討委員会(会長・細田稔男市観光物産協会会長)を設置しました。各委員は5回の委員会で計画内容を協議。市政課題の解決に向けた最良な方向性を、市とともに探ってきました。本年1月19日には同委員会の細田会長と西美代子副会長が市役所を訪れ、山内隆文市長に「各施策を着実に進めるには行政と市民とのかわりが必要だと考えます。計画にも積極的な協働・連携を盛り込みました」と検討結果を報告。市は、最終調整をして今

連携と改革を追加

後5年間の指針となる後期基本計画をまとめ上げました。



山内市長に計画案を手渡す細田会長(右)。中央は西副会長

後期基本計画は、8つの基本方針で構成されています。前期から引き継いだ福祉や教育、産業など、取り組み分野ごとの6つの方針に、⑦まちづくりのための連携(再掲)と、⑧まちづくりのための市政改革の2つを新たに追加しました。⑦の連携は、「行政組織の縦割り意識を変え、横の連携を強めるべき」、「行政だけでは達成が困難な取り組みが多くなるので、市民や各種団体との協働を進めるべき」などの検討委員会が出された意見を反映したものです。協働と連携

まちの未来一緒に

をさらに進めていくという市の姿勢を表しました。⑧の市政改革は、これまで別に策定していた「市政改革プログラム」を総合計画と一本化して、財政の健全化や業務改善に取り組んでいくために追加しました。このほか基本方針の達成状況を客観的に示すため、73項目の指標を新たに設定。数値は見直ししながら、各種事業を進めていきます。

本年度は前期5年を終える折り返し地点。後期基本計画は、より輝くまちの実現を目指すための指針です。市の職員も意識改革に努め、担当部署に限らず連携し各種事業に一層力を入れていきます。しかし、まちづくりの主役は行政ではなく、このまちの皆さんです。皆さんと協力して取り組めば、もっと住みやすいまちになるはず。皆さん、輝く未来に向けたまちづくりを一緒に進めていきましょう。